

目次

権利	Copyrights United Nations University
シリーズタイトル	国連大学プロジェクト[日本の経験]シリーズ
雑誌名	松方財政と殖産興業政策
発行年	1983
URL	http://hdl.handle.net/2344/00051082

目 次

序 文	(林 武)	iii
序 章 明治維新时期財政金融政策展望		
—松方デフレーション前史—	(中村隆英)	3
はじめに		3
I 幕末の政治と経済		4
II 中央集権国家の成立		9
(1) 廃藩置県		9
(2) 財政・金融制度の形成		12
(3) 改革の衝撃と井上財政		18
III 外征・内乱・殖産興業		25
(1) 大久保政権の理想と現実		25
(2) 殖産興業政策		27
(3) 大隈重信の財政金融政策		30
むすび		32

第 I 部

第 1 章 「富国」論の政治史的考察

—1874~81(明治7~14)年—	(坂野潤治)	37
はじめに		37

I 「富国」と「強兵」	39
II 「富国」と「民力休養」	42
III 「富国」論の全盛期	43
IV 「富国」と「勤儉」	45
V 「富国」と「民権」	47
 第2章 創業期財政政策の発展	
—井上・大隈・松方—	(梅村又次) 53
I 井上財政の終末	53
II 大隈の財政制度改革	59
III 大隈財政の展開	68
IV 大隈財政から松方財政へ	79
 第3章 大隈財政論の本態と擬態	
—「五千万円外債案」を中心に—	(山本有造) 85
はじめに	85
I 1879(明治12)年6月「減債方案」ならびに「財政四策」	87
II 1880(明治13)年5月「正金通用方案」ならびに 「三議一件」	90
III 1880(明治13)年9月「財政更革ノ議」ならびに 11月「農商務省設立建議」	96
IV 1881(明治14)年7月「公債新募銀行設立ノ議」	99
むすび	102
 第4章 地租米納論と財政整理	
—1880(明治13)年8月の政策論争をめぐって—	(猪木武徳) 107
I 米納論の登場と不採択	107
II 五代友厚の「米納論」	109

(1) 内容・概略	109
(2) 論点の整理	111
III 米納復帰によって米価は下落するか	112
IV 増税あるいは米価低落と輸入の関係	118
V 井上の反論と所得分配の問題	120
結びにかえて	123
第5章 松方デフレーションのメカニズム	
..... (室山義正)	127
はじめに	127
I 松方紙幣整理政策の基本構造	128
II 予備紙幣の銷却機構	
—予算撤超構造の是正と準備金の充実—	130
III 第1種政府紙幣の銷却過程と国立銀行紙幣の動向	140
IV 地租納期繰上げとデフレーションの深化	146
むすび	153
第6章 松方デフレのマクロ経済学的分析 (改訂版)	
..... (寺西重郎)	157
I 1877~81(明治10~14)年のインフレーション	158
II 紙幣整理と緊縮財政	166
III 景気循環	173
IV 松方の意図と現実	178
補論 明治前期財政統計における金・銀・紙混計	
問題について	
—明治14年度正貨予算書の分析を中心に—	
..... (山本有造)	187
はじめに	187

I	会計法規上における「円」計算の原則	190
II	院省庁支出「外国ニ関スル費用」	192
III	外債元利支払いとその邦貨計算	198
IV	1881(明治14)年度「正貨収支概計表」	202
	むすび	208

第 II 部

第7章 19世紀末日本経済の成長と国際環境

	—1870~1900(明治3~33)年—	(中村隆英)	213
	はじめに		213
I	19世紀末の世界経済と日本		215
II	欧米主要国の金本位制移行とその影響		222
III	「松方デフレーション」以後の経済発展		229
	むすび		236

第8章 松方デフレ下の勸業政策

		(梅村又次)	239
I	前奏曲		239
II	農商務省の創設		241
III	前田正名		245
IV	高橋是清		251
V	品川弥二郎		254
VI	西郷従道		255
VII	興業銀行条例案の結末		260

第9章 地方レベルの殖産興業政策

	—山梨県の事例を中心として—	(斎藤修)	265
	序論		265

I 明治前期勸業政策の全国的概観	268
(1) 地域性	268
(2) 勸業機構とその機能	269
(3) 勸業資金	271
II 山梨県の場合	272
(1) 明治前期藤村県政下の殖産興業	272
(2) 明治前期の勸業支出	276
(3) 明治後期勸業政策との比較	279
結 論	286
 第 10 章 明治前期における日本の在来産業	
—綿織物業の場合— (阿部武司)	295
はじめに	295
I 主な綿織物産地の生産高の動向	297
II 明治前期における綿織物業の展開過程	
—綿織物産地の3類型—	305
(1) 蘇生型	306
(2) 衰退型	310
(3) 成長型	313
おわりに	316